

横浜市立 星川小学校 学校評価報告書 (平成28～30年度)

| 重点取組分野 | 平成28年度 | | 総括 | 重点取組分野 | 平成29年度 | | 総括 | 重点取組分野 | 平成30年度 | | 総括 |
|----------------|--|---|----|----------------|--|---|----------------|--|---|---|----|
| | 具体的取組 | 自己評価結果 | | | 具体的取組 | 自己評価結果 | | | 具体的取組 | 自己評価結果 | |
| 確かな学力 (学習指導) | ①子どもから出た問いのつながりを大切に、学習形態を工夫したり、単元展開・授業展開を工夫したりする。②見通しや振り返りを重視する。③重点研究テーマを「人との関わりを大切に、自分の考えや思いをもって、表現しようとする子の育成」とし、生活科・社会科を中心に、主体的に問題解決する中で、考えや思いを表現する活動を設定する。 | ①②ノートグラブを行い、よい振り返りのモデルを示した。③地域の人や様子に着目し、子どもに身近な教材を扱うことで、主体的な問題解決学習の在り方について探った。学習したことを生活に生かそうとする姿が見られた。今後は対話を通して、考えを深めようとするための手立て等について研究を深める必要がある。 | B | 確かな学力 | ①子どもから出た問いのつながりを大切に、学習形態を工夫したり、単元展開・授業展開を工夫したりする。②見通しや振り返りを重視する。③重点研究のテーマを「人との関わりを大切に、自分の考えや思いをもって、表現しようとする子の育成」とし、生活科・社会科を中心に、主体的に問題解決する中で、考えや思いを表現する活動を設定する。 | ①②子どもの言葉で授業が展開できるように、手立て等を検討した。発言や振り返りを見たり、座席表を活用するなどした。今後は単元を見通す学習問題の設定や板書を活用した授業の見直しなど、考えていきたい。③地域取材を扱うことは対話を実現するのに効果的だった。全学年を見通した「話す・聞く」ことの指導について検討している。 | B | 確かな学力 | ①子どもが自ら考えて選択・判断したり、どうしたいか意思を決定したりできる学習を設定する。②「聞く・話す・書く」等の言語活動について、系統性を大切にした指導や支援を行う。③重点研究のテーマを「人との関わりを大切に、自分の考えや思いをもって、表現しようとする子の育成」とし、生活科・社会科を中心に、主体的に問題解決しようとする姿を目指す。 | ①③職員で協力しながら、教材の開発・研究を行うこと、児童の実態を深く把握すること等を大切に、子どもたちが主体的に学習できるように指導・支援を行った。学習の場を豊かに構成しながら、板書など教師側の役割についても検討した。②発達段階を考慮しながら6年間を見通して身に付けたい力について職員間で交流した。 | A |
| 豊かな心 | ①友達の良さに気付いたり、自己有用感を感じたり、することができるように、たてわり活動を重視する。②ろう特別支援学校等との交流を通して、相手の立場に立って行動したり、コミュニケーションを取ったりすることの大切さに気付くようにする。③道徳の授業について研修し、年1回授業参観にて公開をする。 | ①たてわり班では清掃活動など新しい活動を取り入れ、高学年がリードをしながら協力して活動する姿が見られた。②ろう特別支援学校の交流では、コミュニケーションの取り方を工夫して相手ややりながら交流することができた。④授業参観での道徳の授業を公開した。今後、資料の見直しを進めより良い授業を目指したい。 | B | 豊かな心 | ①友達の良さに気付いたり、自己有用感を感じたり、することができるように、たてわり活動を重視する。②ろう特別支援学校や保育園等との交流を通して、相手の立場に立って行動したり、コミュニケーションを取ったりすることの大切さに気付くようにする。③道徳の授業について研修し、年1回授業参観にて公開をする。 | ①たてわり活動では全校遠足やあいさつ運動、清掃活動などを行った。高学年がリードする姿が見られた。②ろう特別支援学校や保育園との交流では相手や思いややりながら交流する姿が見られた。③道徳の授業を全クラスで公開した。教職員の研修を行いより良い授業を目指している。 | B | 豊かな心 | ①友達の良さに気付いたり、自己尊重感を感じたりすることができるような教育活動を重視する。②ろう特別支援学校や保育園等との交流を通して、相手の立場に立って行動したり、コミュニケーションを取ったりすることの大切さに気付くようにする。③道徳の授業について研修し、年1回授業参観にて公開をする。 | ①宿泊体験学習や運動会、星の子音楽会などの行事を積み重ねることにより、友達の良さに気付くことができた。②ろう特別支援学校や保育園との交流では相手の立場に立って交流しようとする児童が多く見られた。③道徳の授業を全クラスで公開した。教職員の研修を行いより良い授業を目指している。 | A |
| 健やかな体 | ①生涯スポーツの土台となるよう、遊びや体育などを通して体を動かす楽しさを味わわせる。②体力アップの取り組みに「縄跳び」を取り上げ、年間を通して体力の向上に励む。③児童委員会の活動や教科を横断した学習の中で食育に関する取り組みを行う。 | ①②短縄・長縄を通して体力アップの取り組みを行ったが、年間を通して取り組む方法に改善が必要である。定期的に行ったクラスの長縄記録会は効果的であった。③食育に関する取り組みは、給食委員会や第5学年の稲作の学習を通して、児童の関心・意欲を高めることができた。給食の残食を減らすことにもつながった。 | B | 健やかな体 | ①生涯スポーツの土台となるよう、遊びや体育などを通して体を動かす楽しさを味わわせる。②体力アップの取り組みに「縄跳び」を取り上げ、年間を通して体力の向上に励む。③学校保健委員会を中心に「手洗い」を取り上げ、健康で清潔な生活を送ることができるようにする。 | ①②年間を通して長縄記録会を行い、積極的に運動に取り組む様子が見られた。短縄については、体力アップ期間中、各ブロックに記録表を掲示し、児童の意欲が見られたが、年間を通して取り組む方法には、改善が必要である。③保健委員会を中心に、給食前に手洗いの歌を全校放送で流し、清潔な生活を意識できるようにした。 | B | 健やかな体 | ①生涯にわたって運動に親しめるように、体を動かす楽しさを味わうことができるように、教員間での共通理解を図った。共通で使える資料の作成に取り組み、2年間を通して長縄記録会を行い、各クラスで積極的に運動に関わろうとする姿が見られた。短縄月間の取組方法や時期については他の行事との兼ね合いを考え、実施する必要がある。③保健委員会を中心に、歯磨きの大切さを呼びかけ、基本的な生活習慣の定着を図った。 | ①体を動かす楽しさを味わうことができるように、教員間での共通理解を図った。共通で使える資料の作成に取り組み、2年間を通して長縄記録会を行い、各クラスで積極的に運動に関わろうとする姿が見られた。短縄月間の取組方法や時期については他の行事との兼ね合いを考え、実施する必要がある。③保健委員会を中心に、歯磨きの大切さを呼びかけ、基本的な生活習慣の定着を図った。 | B |
| 児童指導 | ①「学校のきまり」と「星川スタイル」をわかりやすい表現に直すとともに全職員で共有して指導にあたる。②「あいさつ」「掃除」「読書」を充実させるために、児童委員会での取り組みを計画実行する。③職員会議内で児童理解の内容を定例化し、児童の状況を共通理解する。 | ①②星川スタイルを基盤に一貫した指導ができるよう、子どもの実態に応じ、その都度、全職員で確認した。細かい部分については、職員の見聞も聞き、改善していく必要がある。「掃除」については、年間を通して継続して続けられる活動も取り入れたい。③教職員の児童についての共通理解を深める有効な場となった。 | B | 児童指導 | ①「学校のきまり」と「星川スタイル」を定期的に見直すとともに全職員で共有して指導にあたる。②「あいさつ」「掃除」「読書」を充実させるために、児童支援委員会や児童の実行委員会での取組を計画、実行する。③職員会議内で児童理解の内容を定例化し、児童の状況を共通理解する。 | ①②星川スタイルを基盤に一貫した指導ができるよう、子どもの実態に応じ、細かな生活の部分についても、全職員で確認した。「掃除」については、「たてわり掃除」を取り入れ、子どもの意識を育てる機会とした。③教職員の共通理解を深める有効な場となった。引継ぎについても共通の形式で記録を残すようにした。 | B | 児童指導 | ①「学校のきまり」と「星川スタイル」を定期的に見直す機会を設け、全職員で共有して指導にあたる。②「あいさつ」「掃除」「読書」を充実させるために、児童支援委員会や児童の実行委員会での取組を計画、実行する。③職員会議内で児童理解の内容を定例化し、児童の状況を共通理解した上で指導に生かす。 | ①②全職員が一貫した指導ができるように「星川スタイル」を年度初めに確認した。年度の途中には、指導についての振り返りを行い、見直す機会を設けた。児童の実行委員会による「あいさつ運動」や「たてわり掃除」を実施し、意識を高めた。③児童に対する教職員の共通理解を深める有効な場となった。 | B |
| 特別支援教育 | ①一般級においても必要とされる具体的な支援方法やユニバーサルデザイン教育について研修を行う。②一般級と個別支援学級の連携強化に向けて、合同学年研を積極的に行い、情報交換を密に図る。 | ①教室環境や配慮が必要な児童の座席位置等、研修を行ったことで教室内の掲示物の配置や黒板まわりの環境が整ってきた。②交流級担任と担当との情報交換にとどまっていた。交流級担任以外の職員にも情報共有するため、今後は日時を決めて進めていきたい。 | B | 特別支援教育 | ①一般級においても必要とされる具体的な支援の方法やユニバーサルデザイン教育について研修を行う。②一般級と個別支援学級の連携の強化に向けて、合同学年研を積極的に行い、情報交換を密に図る。 | ①ユニバーサル教育については教員全体に周知してきたので、本年度は具体的な研修は行わなかった。②交流級担任とは朝や放課後に小まめに児童の情報を共有するようになった。行事等では、合同学年研に積極的に参加できた。 | B | 特別支援教育 | ①一般級においても必要とされる具体的な支援の方法やユニバーサルデザイン教育について研修を行う。②一般級と個別支援学級の連携の強化に向けて、合同学年研を随時行い、情報交換を密に図る。 | ①一般級においても必要とされる、具体的な配慮、支援についての研修を行い、各学級における指導に生かすことができた。②交流級担任と個別支援級担任とが小まめに連絡を取り合い、より良い交流の在り方について話し合うことができた。特に、行事の時には児童の実態、学年の担任との話し合いを密に行なった。 | B |
| 地域連携 | ①地域防災訓練、星の子まつり等、地域との協働による行事に対して、地域と学校が計画、準備等を協力して進め、児童と職員が積極的に参加できるようにする。②星の子学習広場、星の子ふれあい教室等、地域のボランティアの教育力を活用して、学習支援等を行う。 | ①今年度より地域防災訓練の参加者を増やすために、保護者へも強く呼びかけ、昨年度に比べ参加者が1割以上増えた。諸行事においても、地域と協同して準備や当日の運営を進めることができた。②星の子学習広場では、夏休み宿題教室の対象学年を1年生から5年生までに拡充して、より充実することができた。 | A | 地域連携 | ①地域防災訓練、星の子まつり、もちつき大会等、地域との協働による行事に対して、地域と学校が計画、準備等を協力して進め、児童と職員が積極的に参加できるようにする。②星の子学習広場、星の子ふれあい教室等、地域のボランティアの教育力を活用して、学習支援等を行う。 | ①今年度より、ふれあいまちつき大会の組織と内容について見直しを図り、児童がより積極的に参加することができ、地域の方との交流も深まった。保土ヶ谷中学校の吹奏楽部と児童の交流も行うことができた。②星の子学習広場に加えて、今年度から全学年の希望児童を対象とした放課後学習広場を週に1度実施した。 | A | 地域連携 | ①地域防災訓練、星の子まつり、もちつき大会等、地域との協働による行事に対して、地域と学校が計画、準備等を協力して進め、児童と職員が積極的に参加できるようにする。②星の子学習広場、星の子ふれあい教室等、地域のボランティアの教育力を活用して、学習支援等を行う。 | ①地域防災訓練に関わる会議を年間5回、星の子まつり、ふれあいまちつき大会等の行事においても保護者と地域と学校が密に連携して計画、実行することができた。②地域の方のボランティアによる星の子学習広場も毎週、毎月、夏休みとリレーションを増やして学力の向上に貢献して頂いた。 | A |
| 教育環境整備 | ①校舎内の老朽化(危険)箇所やその程度を点検し、修繕の優先順位をつける。②安全で快適な学習・生活空間づくりに尽力する。③教材・教具においては、教科担当等の申し出を整理し、計画的で適正な予算の執行に努める。 | ①安全面、衛生面の向上を最優先に修繕を行うことができた。今後は修繕だけでなく環境整備にも力を入れたい②経年劣化の進んだ机いす、カーテン等児童に近しいものから順次更新しているが、まだまだ不十分。来年度以降も継続する必要がある。③重点事項を優先しつつ各教科・領域からの要望をまとめ効率的に執行することができた。 | B | 教育環境整備 | ①校舎内の老朽化(危険)箇所やその程度を点検し、修繕の優先順位をつける。②安全で快適な学習・生活空間づくりに尽力する。③教材・教具においては、教科担当等の申し出を整理し、計画的で適正な予算の執行に努める。 | ①照明設備の改修やガラス破損箇所の修繕を実施した。同時期に設置されたものが徐々に破損しているため今後は破損箇所の把握に努めながら修繕を進める必要がある②昨年度に引き続き児童用机いす、カーテンの更新などを実施した。③各教科・領域からの要望をまとめ効率的に執行することができた。 | A | 教育環境整備 | ①校舎内の老朽化(危険)箇所やその程度を点検し、修繕の優先順位をつける。特に昨年度未実施の修繕箇所を最優先に実施する。②安全で快適な学習・生活空間づくりの、机いす等児童に近しい物から優先的に更新を進めていく。③教材・教具においては、教科担当等の要望を整理し、計画的で適正な予算の執行に努める。 | ①昨年度未実施だった校庭カーテンネットをはじめ教室窓・黒板・本館階掲示板など施設の改善を図った。②昨年度に引き続き児童用机いす、図書室用机いす、カーテンの更新を実施した。③各教科・領域からの要望をまとめ効率的に執行することができた。 | A |
| | | | | いじめへの対応 | ①児童の思いや変化に素早く気付くことができるように定期的な担任との面談やアンケート調査を行う。②多様な視点で児童の様子を把握できるよう、学年や低中高ブロック単位で児童の指導や支援にあたる。③道徳的な意識や人権感覚を育てられるよう、専門機関と連携し、発達段階に応じた指導を行う。 | ①②定期的なアンケート調査や面談等を行い、職員間の情報共有を密に行うことで、児童の思いや変化に気付く機会をつくることができた。また学年や低中高ブロック単位で児童の指導や支援にあたる。③道徳的な意識や人権感覚を育てられるよう、専門機関と連携し、発達段階に応じた指導を行う。 | B | いじめへの対応 | ①児童の思いや変化に素早く気付くことができるように定期的な面談やアンケート調査を行う。②多様な視点で児童の様子を把握できるよう、学年や低中高ブロック単位で児童の指導や支援にあたる。③道徳的な意識や人権感覚を育てられるよう、専門機関と連携し、発達段階に応じた指導を行う。 | ①②アンケート調査や面談を行い、児童の思いや変化に気付く機会をつくることができた。いじめ防止対策委員会を定期的に行い、他の職員とも情報共有を行うとともに、職員全体で見守る体制を取った。③子どもたちが安心して生活できるよう、専門機関に相談したり、教職員の人権意識等を高める研修を行った。 | A |
| 人材育成・組織運営 | ①メンターチームを5年次以下の教職員を中心に組織し、ミドルリーダーが講師となって月1回の活動を継続して行う。②情報機器を活用し、情報の共有を図るとともに、事務の簡便化、効率化を図る。③定期的に主幹会及び運営企画会を行い、ミドルリーダー、学校リーダーが全体を見通して学校運営していく場を設定する。 | ①指導法や日頃の悩みについて話し合う良い機会の場となった。ミドルリーダーから強化の専門的な指導を受け、効果的であったので、そういった機会を今後も増やしていきたい。②情報共有ソフトを意識的に使うよう共通理解し、連絡がスムーズになってきている。③主幹会を定例化することで、情報を確実に伝達できるようにした。 | B | 人材育成・組織運営 | ①メンターチームを5年次以下の教職員を中心に組織し、ミドルリーダーが講師となって月1回、活動を行う。②情報機器を活用し情報の共有化を図るとともに、事務の簡便化、効率化を図る。③定期的に主幹会及び運営企画会をもち、ミドルリーダー、学校リーダーが全体を見通して学校運営していく場を設定する。 | ①メンター研修を定期的に行う計画であったが、時間の確保が難しかった。授業を見合ったり、教育的スキルについて学ぶこと日常化していく工夫が必要である。②意識的に行うようになってきた。③定期的に主幹会をもっているが、議題の調整や情報の共有に時間を費やすことが多かった。OJTの活用を多くしていきたい。 | B | 人材育成・組織運営 | ①メンター研修に校内OJT体制を取り入れ、活動の充実を図る。②定期的に主幹会をもち、学校リーダーが見通しをもって学校運営に携わっているように校内OJT体制を活用していく。③情報機器を活用した情報の共有化を、事務の簡便化や効率化に生かすようにする。 | ①メンターリーダーを中心に定期的に研修を実施した。校内OJT体制も少しずつ取り入れることができた。②定期的に主幹会をもち学校運営上の諸問題について共有した。③情報の共有化のために新たな情報機器を活用することはできなかった。 | B |
| ブロック内相互評価後の気付き | 保土ヶ谷中ブロックの運営がより密になり、小学校の教員の中学校の授業参観と小中合同の研修会、また中学校の教員の小学校研究授業参観並びに研究討議参加といった取り組みを通して、小中一貫教育の推進を図ると共に、相互理解を進めることができた。教務主任会、児童支援、生徒指導専任会を通して保土ヶ谷中ブロック内の情報交換を積極的に行い、良好な連携を育むことができた。また、保土ヶ谷中学校の文化祭に小学校の作品を展示したり、中学校の生徒役員が小学校への中学校生活のガイダンスに赴いたりといった形での交流を進め、関係を深めている。 | | | ブロック内相互評価後の気付き | 保土ヶ谷中ブロックの連携がより深まり、お互いの顔の見える関係を築くことができている。小学校教員の中学校の授業参観と小中合同研修会、また中学校教員の小学校研究授業参観並びに研究討議参加といった取り組みを通して、小中一貫教育の推進を図るとともに、相互理解を進めている。また、今年度は、以前からの活動に加え、横浜市立小学校体育大会に向けての合同練習のよう中学校の教員による技術支援や2年生で実施した職場体験の体験先として、ブロック内の小学校にも協力してもらうといった連携を進める中で生まれた新たな取り組みも目立った。 | | ブロック内相互評価後の気付き | 保土ヶ谷中学校ブロックの連携がより深まり、お互いの顔の見える関係を築くことができている。小学校の先生方の中学校の授業参観と小中合同の研修会、また中学校の先生方の小学校研究授業参観並びに研究討議参加といった取り組みを通して、小中一貫教育の推進を図ると共に、相互理解を深めている。また、今年度は以前からの活動に加え、横浜市立小学校体育大会に向けての合同練習のよう中学校の教員による技術支援や2年生で実施した職場体験の体験先として、ブロック内の小学校にも協力してもらうといった、連携を進める中で生まれた新たな取り組みも目立った。 | | | |
| 学校関係者評価 | 地域を含めて外部との交流を積極的に教育活動に取り入れていることにより、学校の中の風通しをよくし、よい雰囲気づくりに役立っている。また、基本的な学校生活のルールを教職員が意思統一した星川スタイルを設けて、子どもたちを丁寧に細かく見ている。情報を共有する仕組みをつくっていることは今の時代は特に重要であるので、地域での子どもたちの雰囲気がとてもよい。課題としては、学校でも家庭でも、自分の思いや考えを表現することが苦手な子どもが多いので、重点的取組分野に家庭との連携を入れることを検討して欲しい。 | | | 学校関係者評価 | 今年度、地域との共同行事の在り方を改善したり、授業を通じて地域の方とのつながりを広げたりすることができた。その結果、日常的に地域の方々が学校の教育活動に参加できる雰囲気作りにつながっている。「星川スタイル」を中心的にした「チーム星川」の体制は年々深まってきているように感じる。さらに子どもが安心して教職員の誰にでも相談できる体制であることを広めてほしい。子どもたち一人ひとりの生活習慣、学習習慣の基礎を育てていくために、学校での特別支援教育を充実させるとともに、地域のノウハウを生かした取組を充実させていくことが大切である。 | | 学校関係者評価 | 今年度は評価委員が授業を参観して、実際に子どもたちに接することができたのがとてもよかった。学習面では一人ひとりに対する支援の方法が良いと思う。一方で、自分の考えを表現したり、考えを伝えたりするのが苦手だと感じている子どもが25パーセントもいるのが気になる。「挨拶」ができていない子もいるができていない子も多いため、まずは、大人が実践することが大切。現在、地域と学校とがとても良い関係にあると思う。子ども達はとても素直なので、今後も長年培ってきた星川小学校の良い風土をさらに伸ばしていってほしい。 | | | |
| 学校経営中期取組目標振り返り | 学力の向上のために重点研究のテーマをどの教科・領域においても教員が意識して取り組むことが重要である。教材研究を通して教員同士の連携を強めていくことが期待できる。ブロック研や学年研の時間を確保することで、子ども一人ひとりの理解を深めるために情報を共有して、具体的な指導方針を確認していく。特に子どもが自分の考えや思いを表現できる手立てを家庭や地域との協力を得ながら取り組んでいく。 | | | 学校経営中期取組目標振り返り | 喫緊の課題である「いじめへの対応」については、何より各学級担任の児童の人間関係への洞察度を高め、「全ての教職員が全児童の担任である」という共通意識に立ち、複数の目で児童を見守り情報交換を密にして、「空振り」はOK、見逃しはNO!を合言葉に、担任・児童支援専任を核として迅速な対応を心がけてきた。また特別支援教育にも力を入れ、人員配置の難しさはあるが、児童や保護者のニーズに寄り添い「取り出し指導」「入り込み指導」も続けてきた。学力の向上では、地域のカもお借りして、放課後や夏休みなどに学習教室を開催している。今後これら取り組みをさらに継続強化していきたい。 | | 学校経営中期取組目標振り返り | 児童一人ひとりの学習状況をみとり、児童の実態に合わせて学習を進めていくことで、児童が主体的に学習を進めることができるようになってきた。今後は重点研究会等を通して、新学習指導要領で求められている「主体的、対話的で深い学習」を目指して教員の授業力を高めていきたい。「いじめへの対応」については、毎月開催のいじめ防止対策委員会等を通して、いじめにつながると思われる事案については情報共有・意見交換を行い、未然防止や早期解決につなげることができた。経験の浅い教員が増えてきていることから、人材育成は喫緊の課題である。今後は校内OJT体制を取り入れて、人材育成に努めていく。 | | | |